

地域の子どもたちに伝える本 シラカバブック

「ずっと、絵本のようなものを作りたいんですけど！」という思いに声を揃えるのは、鳥羽山聡さんと田中定文さん。発足時から白樺プロジェクトの活動に中心に関わってきた2人。これまでも、北海道の森林の現状を伝えるパンフレットは発行したことはあった。しかしそれらは、正確な調査結果や資料に基づいた情報を出すことを重視してきた分、一般の人や子どもたちにとっては、「少しわかりにくいものだった」と。「白樺プロジェクトは地域の未来に関わる活動でありたい。そう思うと、やっぱり地域の子どもたちにも伝えたいな」と。絵本なら、子どもから大人まで幅広い人たちに伝えることができますよね」とは、鳥羽山さん。「とにかくわかりやすいものを」と思っていたのは、田中さんにとっても同じ。自然と話は進み、鳥羽山さんが企画書を作成し、田中さんがエスキース(下絵になるもの)を起こす形で本づくりは進行していった。

デザインはもちろん、グラフィックデザインを本業とする田中さんが担当。最初に浮かんでいた「切り絵をモチーフに、優しい色合いにしよう」というイメージはそのまま、内容はできるだけシンプルに。白樺の生態から始まり、「今まで利用価値がないとされてきたけど、研究者の手によって、十分に利用できる木であることがわかったんだ(本文より一部抜粋)」など、白樺の「今」をわかりやすく伝える一冊が完成した。2022年1月より、旭川近郊を中心に販売・配布を開始。プロジェクトメンバーがシラカバ材についてPRする際に使用したり、研究林のイベントやワークショップの際に配布したりと、さまざまな場面で活躍している。学校関係者からの反応もあり、「白樺樹皮に触れる授業をやってみよう」という声も届いているそうだ。プロジェクト発足時に比べて、「白樺が一つの素材として地域に定着してきた感覚がある」と2人は言う。「たとえば樹液が甘くておいしいとか、樹皮でものづくりができるとか、地域の子どもたちがちゃんと知っている」。基礎的な内容ではあるが、「白樺の活用」あたりまえのこと」という認識が子どもたちにも浸透しているという点に着目したい。通学路や公園などにも生えていて、見た目にも特徴的な白樺。その存在は、森と人とのつながりを知るきっかけになるかもしれない。



写真上/白樺プロジェクトの中心メンバーでもある鳥羽山さんと田中さん。旭川デザインセンター内の展示コーナーで撮影。
写真下/白樺の生態を紹介するページ。柔らかく透明感のある色づかいが印象的。



全体で20ページと、基本を知るにはちょうど良い内容量。オンラインで購入できるほか(275円)、旭川デザインセンターでは無料配布されている。



白樺プロジェクト事務局

北海道旭川市高砂台6丁目12-1
https://www.shirakaba-project.jp
Mail: info@shirakaba-project.jp



白樺プロジェクトの “今”から紐解く 白樺の可能性

白樺プロジェクトは、家具職人や研究者など未来の森を思うメンバーが集まって発足させたプロジェクト。本誌62号でその活動取材してから2年。プロジェクトの今と、白樺の可能性を訪ねて。

取材・文・撮影/立田葉那 撮影/菅原正嗣

今回取材に協力してくれた プロジェクトメンバー



- 木と暮らしの工房
鳥羽山聡さん(家具再生・製造)
- Papasdesign
田中定文さん(グラフィックデザイン)
- 樹凜工房
杉達浩昭さん(家具製造)
- アーケン株式会社
藤原立人さん(建築)
- 建築設計事務所トピカ
竹内隆介さん(建築)

※写真左前から時計回り

「北海道にたくさんあって身近な白樺という資源を、どうにか活かさないだろうか」。2018年11月、林産試験場の秋津裕志さんの思いに答えるようにメンバーが集まり、旭川を拠点に発足した白樺プロジェクト。現在は研究員や家具職人、デザイナーなど、それぞれ所属や職業の異なる10名のメンバーで構成されている。白樺プロジェクトが目指すのは、白樺が産業として、文化として、地域に根付いていく未来。スローガンとして掲げている「ずっと使う、ずっと育てる」が、活動の2つの柱を表している。もう少し

具体的な言葉で落とし込むなら、「人の手で育てながら、高付加価値で利用し続ける」ということ。その方法を確立させるために、育成方法や材の性質を研究し、白樺を使った家具や建具の製作を続ける。要となるのは、メンバー一人ひとりの専門性だ。「白樺ってものすごく可能性のある木だと思っています。森林構成や伐採量をはじめ、きちんとした調査と分析に基づいた活用方法を考えることで、持続可能な森づくりのヒントが見えてくると考えています」とは、家具職人の鳥羽山聡さん。持続的な森づくりを行

い、そこから得られた白樺に付加価値をつけて地域資源の一つにしていく。白樺プロジェクトのメンバーは、そんな未来を目指して活動に取り組んできた。発足から3年半。ここ最近の具体的な動きを尋ねてみると、「一本を作ったり、シラカバ材の家具を使ったカフェや宿の建築に携わったり」。研究結果が実を結び、これまで一般的には価値が低いとされてきたシラカバ材にも、スポットが当たり始めているようだ。白樺プロジェクトの今と具体的な活用事例から、白樺という樹木の個性や可能性を紐解いてみたい。

家具はすべてシラカバ材 湧駒荘の白樺ルーム

建築設計事務所トピカの竹内隆介さんは、「純粹に面白そうだなと思って」2020年にプロジェクトメンバーに仲間入りした建築家。今年の2月、湧駒荘の客室リニューアルに伴い、シラカバ材をふんだんに使った「白樺ルーム」のデザインに携わった。

シラカバ材を使った理由については、「押し付けではなく、あくまで『いいものを作る』という前提で。材料の由来がわかっているものに囲まれて過ごせることは、単純に豊かなことなんじゃないかと思っただけです。窓からも白樺が見



えるこの場所であれば、よりそれやる意味があると思いました。」ヘッドボードやソファをはじめ、家具の製作を手がけたのは鳥羽山さん。「ひと部屋丸ごと、シラカバ材の家具が使われている建物って、知る限りない。どうなるのか楽しみと不安がありましたけど、完成してみたら素直に良いなと思って。華やかさがあるわけではないのですが、北国らしい等身大の間ができた！と思えましたね。」

「僕も完成するまでは、あつさりした印象になり過ぎたかな？と思ったりもしたんですが、シラ



カバ材は白木で品があるし、それでいて独特のワイルドさがあるんですよ。結果的に地域らしさのある部屋になったと思う。お客様からの反応も良くて、こちらの思いが届いた気がしてうれしいです」と、竹内さんは笑顔を見せる。

メインの家具のほか、窓枠など細かい部分も白樺で設えた白樺ルーム。シラカバ材の柔らかな雰囲気と、ホタテの貝殻を使った漆喰の壁の相性も良い。竹内さんは言う。「シラカバ材とほかの素材と組み合わせることで、材としての可能性はもつと高まっていくと



写真上/トピカの代表を務める竹内さんと、鳥羽山さん。トピカの物語は、本誌51号でも紹介しています。写真中央・下/湧駒荘の白樺ルームは全部で3室。いずれもシングルルームで、3室に備えられている家具はほぼ同じ。白を基調とした明るい空だ。(写真提供/白樺プロジェクト)

湧駒荘
東川町湧駒別荘温泉
TEL.0166-97-2101
https://www.yukoman.jp
※料金など詳細は、webサイトから確認を。

シラカバ材の柔らかさに包まれる ジャム&カフェ Tam Jam

「正直なところ、最初は花粉症のイメージしなくて：(笑)」と白樺の印象を話すのは、TamJamオーナーの田向隼人さん。2021年に札幌から東川町へ移住し、大雪山が一望できるこの土地に、自宅兼店舗を建てた。

その設計を担当することになったのが、アーケン株式会社の藤原立人さん。「小さい子どもがいる家族連れにも来てもらえるカフェにしたい」という田向さんの思いを聞いて、明るい雰囲気を出せるシラカバ材の使用を提案。樹凜工房の杉達浩昭さんと共に、テーブルやイスはもちろん、窓枠やドアなど至るところにシラカバ材を使った空間を造り上げた。

「どこまでやるか(どの範囲までシラカバ材を使うか)から、田向さんの意向を聞きつつ打合せを重ねて。最終的には、『やるならとことんやろう』という結論に辿り着きました。こういう機会をいただけて、本当に感謝しています」と、藤原さんは振り返る。

カウンターに使った大きなシラカバ材は、白樺プロジェクトの協力者でもあり、旭川で自伐型林業を営む清水省吾さんの案内のもと、田向さん自らが森へ入り、選んだものだ。当日は、藤原さんと杉達



1・2 窓越しに大雪山が望める店内。奥には家族連れに人気の小上がりも。
3・4 リンゴやイチゴ、トマトなどのジャムはすべて無添加。『ハンバーグ(1,300円)』をデザート付きで。ハンバーグソースなど料理にもジャムが使われているのが特徴。
5 杉達さん(写真左)と藤原さん(写真右)。
6 田向隼人さんと妻の麻衣さん。

ジャム&カフェ Tam Jam
東川町西3号北12
TEL.0166-67-2729
営業時間/11:00~18:00
定休日/火曜(12~3月は月・火曜)
https://tamjam-higashikawa.com

さんも同行。「どういう流れを経て、木材がやって来るのか。これから使っていく方に、その一連の流れを見てもらえた。理想的な形だったと思います」と、杉達さんは語る。

完成後の印象を田向さんに尋ねてみると、「日中、光が差すと本当に明るくて良い雰囲気になるし、日が沈んでも材が白い分、柔らかい空気を醸し出してくれる気がします。空間に合わせて白樺をあしらったギフト用のパッケージを作ったりと、地域性も出せました」と、大満足の様子。

カウンターのほか、ドアなど比較的面積の大きなパーツにもシラカバ材を使用したのが、今のところ材が狂うこともなく「問題なし」。店内に並ぶ道産素材のおいしさがぎゅつと詰まったジャムの色合いを、シラカバ材の軽やかな白さがより引き立てているように感じられた。



家具の再生や製造を担う、木と暮らしの工房代表を務める鳥羽山さん。林業に携わっていた経験も持つ。写真は横加内町にある雨竜研究林にて。

白樺は、丸ごと1本使える木。
「使っていていいよ」と
言ってもらえている気がする。



LAKANVA ラカンバ

白樺と使った製品開発に精力的に取り組む鳥羽山さん。LAKANVAは白樺を製材する際、樹皮をきれいに剥くことで余すところなく活用した作品だ。

東川町西29 TEL.0166-73-9202
<https://kitokurashi-no-koubou.com>

白樺プロジェクトのメンバーを訪ねる取材の最後に、鳥羽山さんが話してくれたことが心に残った。「白樺の生育範囲と、人の生活範囲とが近く近いじゃないですか。こんなに身近な存在で、樹皮から材まで余すところなく活用できる。そしてほかの樹種に比べて生長もかなり早い。なんだか『使っていていいよ』って言ってもらっている気がするんです」。

白樺は、山火事や道路開発の後、森林がなくなった場所に真っ先に生えるパイオニアツリー。人が植えずとも、ほんの少し手を加えるだけでたくましく自然に育ってくれる樹木だ。長い間、利用価値はないとされてきたが今は違う。家具として十分利用できる強度があることが数値化されているし、その価値は想像以上のものだった。ナラやタモが生長するのに200〜300年かかるのに対して、白樺の生長サイクルは約50年。ウッドショックの問題が深刻化する今、生長の早いシラカバ材の活用ができれば、成長途中のナラやタモを伐らずに森の遷移を早め、自然な更新を後押しできる可能性がある。その意味で、今回紹介した宿やカフェでシラカバ材が活用されていることは、プロジェクト

メンバーにとっても明るい希望だ。「最初はどちらかというと、シラカバ材の利用に重点を置いて活動していたように思います。活動を続けるうちに、今回紹介したカフェや宿での事例ができたりと、材としての価値が少しずつ広まってきた。ここを起点に、『シラカバ材があたりまえに使われている状態』を作ることができれば、白樺を育てようとする林業関係者も増えていくかもしれない。白樺が一つの文化や産業として根づくことは、持続的な森林管理につながると思っています。そんな未来をこれからの世代に渡していけたら」。

目指す未来を叶えるための課題はまだたくさんある。しかしきっと白樺には、北海道の森を良い方向へ導くカギがある。その道の専門家が集まって一つのプロジェクトを立ち上げてしまうほどの樹木だ。まだまだ眠っているポテンシャルがあるだろう。何も無い大地に、先頭を切って芽を出してきた生命力と逞しさ。何より白樺について語るプロジェクトメンバーの表情は、その力を心から信じているようだった。



白樺を伐り出すのは、北大研究林や、メンバーの清水省吾さんが進める森。森から作り手への流れがプロジェクト内で成立している。

白樺プロジェクトメンバーに聞く

シラカバ材の個性

プロジェクトメンバーへのインタビューや、活用事例を見せてもらう中で感じたシラカバ材の特徴と個性をまとめてみました。



白く柔らかな木目の美しさ

白っぽい材の中に茶色の斑点があるのが特徴の一つ。木目は上品な美しさにあふれているけれど、どこか芯の強さを感じるような雰囲気。鳥羽山さんの「華やかではないけれど、等身大の北国らしい」という言葉、竹内さんの「上品さとワイルドさが同居した」という言葉が本当にぴったりだと思った。



異素材との組み合わせで活きる

トビカの竹内さんが話してくれたように、素材との組み合わせによって表情が大きく変わる印象を受けた。漆喰と組み合わせるといかにも北国らしい素材感が生まれるし、写真のように柄の入った厚手の布と組み合わせると、ぐっと深みのある表情に。黄色やオレンジ色などポップな色味とも馴染む万能選手だ。



指標としての「わかりやすさ」

材の個性からは少し話が逸れてしまうけれど。「この家具には〇〇材が使われている」と聞いたときに、誰もが樹木の姿を思い浮かべることができる材はそう多くない。森と人とのつながりを実感したり、地域の森林に起きていることに目を向けるきっかけになったり、さまざまな角度から森への興味を開いてくれる。

話を聞いた家具工房・設計事務所

topica (旭川オフィス)
旭川市豊岡6条6丁目2-3-4 TEL.0166-85-7210
<http://topica.design>

アーケン株式会社
旭川市豊岡6条4丁目4-15 TEL.0166-56-3734
<https://www.ahken.jp>

樹凧工房
美瑛町朗根内 TEL.0166-96-2448
<http://kirinkoubou.com>